

分野別目標総括シート

分野別目標5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

<めざす姿>

○海をはじめとする自然、歴史、文化、食、スポーツ、商業施設などの多彩な資源が磨きあげられ、回遊性の高さやおもてなしなどにより、アジアの交流拠点として、世界中から人々が集まっています。また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、魅力向上に向けた取り組みや戦略的なプロモーションにより、九州全体の集客力が高まっています。

○都心に近い大濠公園、舞鶴公園一帯が、市民の憩いの場としての機能と、歴史、文化、観光の発信拠点としての機能を兼ね備えており、都市の顔として、その魅力の向上に重要な役割を果たしています。

○MICEの拠点都市や国際スポーツ大会の開催都市として国際的に認知されています。

施策		成果指標		重点事業 ※網かけは再掲	
名称	評価	指標項目	指標の 達成状況	名称	進捗状況
施策5-1 観光資源となる魅力の 再発見と磨き上げ	(順調)	入込観光客数 (日帰り)	(A)	日本で唯一の歴史資源活性化事業	A
		入込観光客数 (宿泊)	(A)	鴻臚館・福岡城の整備① (鴻臚館跡整備基本構想事業)	A
				鴻臚館・福岡城の整備② (福岡城跡整備基本計画事業)	A
施策5-2 緑と歴史・文化のにぎわ い拠点づくり	順調	過去3年間に福岡 城跡(舞鶴公園)に 行ったことがある市 民の割合	A	吉武高木遺跡環境整備事業	A
				クリエイティブフェスタ (クリエイティブ・エンターテインメント 都市づくり推進事業) <再掲7-3>	B
				アジアフォーカス・福岡国際映画祭 <再掲7-3>	B
施策5-3 情報アクセスや回遊性な ど、来街者にやさしいお もてなし環境づくり	概ね順調	観光案内ボラン ティアの案内人数	A	農水産物のブランド化の推進 (ふくおかさん家(産地)のお気に入り 事業～農産物ブランド化推進～) <再掲6-4>	A
		観光情報サイトの アクセス数(観光情報 サイト「よかなび」の月間P V(ページビュー))	C	水産物ブランド化・流通対策事業 <再掲6-4>	A
				福岡で「もう1泊」推進事業	B
施策5-4 交流がビジネスを生むM ICE拠点の形成	(概ね順調)	国際コンベンション 開催件数	(A)	動植物園再生事業<再掲4-4>	A
		国内コンベンション 誘致件数	(C)	美術館大規模改修・リニューアル事 業<再掲1-4>	B
				セントラルパーク構想推進事業	A
				鴻臚館・福岡城の整備① (鴻臚館跡整備基本構想事業) <再掲5-1>	A
				鴻臚館・福岡城の整備② (福岡城跡整備基本計画事業) <再掲5-1>	A
				まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充 実強化① (観光案内ボランティアの充実強化)	A
				まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充 実強化② (歴史・文化遺産まち歩き)	B
				観光客にやさしいまちづくり事業①	B
				観光客にやさしいまちづくり事業②	A
				都心のまちづくりの推進 (都心のエリアマネジメントの推進) <再掲4-6>	B
				快適で高質な都心回遊空間の創出 事業(経済観光文化局)	B
				快適で高質な都心回遊空間の創出 事業(住宅都市局)	B
				快適で高質な都心回遊空間の創出 事業(道路下水道局)	B
				コンベンション機能強化の検討	B
				都心部とウォーターフロントとの交通 アクセス強化の検討<再掲4-5>	B
				産学官民連携による国際競争力強 化事業<再掲6-1>	C
				MICE誘致推進事業	B
				(MICE開催支援等推進事業)	B

施策		成果指標		重点事業 ※網かけは再掲	
名称	評価	指標項目	指標の 達成状況	名称	進捗状況
施策5-5 国際スポーツ大会の誘 致やプロスポーツの振興	概ね順調	福岡市を活動拠点 とするプロスポーツ チームなどの主催 試合観客数(福岡ソフト バンクホークスを除く)	C	国際スポーツ大会等の誘致・開催① (大規模スポーツ大会誘致・開催支 援)	A
		スポーツ観戦の機 会への評価(福岡市 はスポーツ観戦の機会に 恵まれた都市だと思ふ市民 の割合)	A	国際スポーツ大会等の誘致・開催② (国際スポーツ大会開催等経費)	—
施策5-6 国内外への戦略的なプ ロモーションの推進	やや遅れている	福岡市への外国人 来訪者数	B	国際スポーツ大会等の誘致・開催③ (スポーツコミッション事業)	C
		外航クルーズ客船 の寄港回数	C	アビスパ福岡活用・支援	B
				拠点体育館整備<再掲1-5>	A
				国内外観光プロモーション事業①	B
				国内外観光プロモーション事業② (戦略的情報発信事業)	B
				国内外観光プロモーション事業③ (アジア観光市場開拓事業)	B
				国内外観光プロモーション事業④ (観光ブランド創出事業)	B
				国内外観光プロモーション事業⑤ (欧州プロモーション事業)	B
				クルーズ客船誘致活動の推進・受入 体制の充実強化①外国クルーズ客 船受入事業(A)	C
				クルーズ客船誘致活動の推進・受入 体制の充実強化②外国クルーズ客 船受入事業(B)	C
				クルーズ客船誘致活動の推進・受入 体制の充実強化③(クルーズ客船誘 致事業)(調査振興費)	C

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-1	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ		
施策の方向性	福岡市が有する歴史文化資源を市民の財産として保存・整備し、アジアとの交流や祭り、コンサートや観劇、展覧会などのさまざまなイベント、美しい街並み、商業施設、食文化や自然環境などと共に、福岡市の貴重な観光資源として、誰もが親しみやすいストーリー性を付加しながら磨き上げるなど、官民一体となった集客戦略を推進します。 また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、それぞれがもつ特色ある観光資源を合わせ、エリアとしての魅力向上を図ります。		
施策主管局	経済観光文化局	関連局	農林水産局、住宅都市局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-1)観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

●福岡の歴史資源の観光活用

- 日本で唯一の歴史資源活性化事業(鴻臚館・福岡城、元寇防塁、志賀島等)
- 鴻臚館・福岡城の整備[鴻臚館跡整備基本構想事業、福岡城跡整備基本計画事業、福岡城集客機能検討]
- ★黒田官兵衛プロジェクト
- 吉武高木遺跡環境整備事業
- 庚寅銘大刀保存活用事業
- ◆博多ライトアップウォークの推進<再掲:博多区>
- ◆地域密着型の集客・まちづくり<再掲:博多区>
- ◆中央区歴史・文化を生かしたまちづくり推進事業<再掲:中央区>

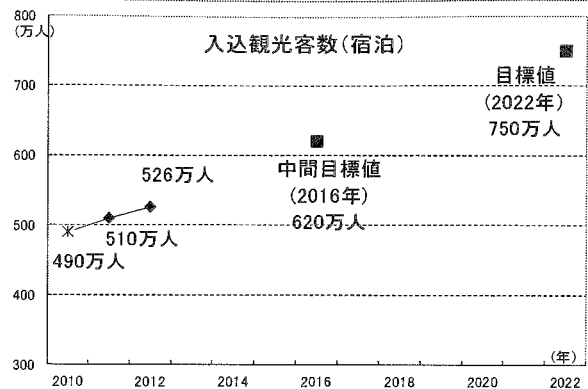
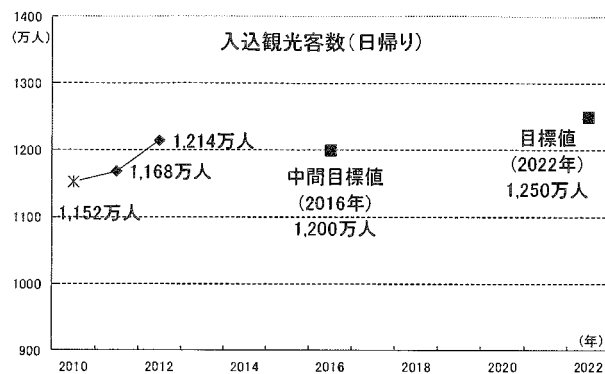
●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- アジアン・パーティ
- [クリエイティブフェスタ<再掲7-3>、アジアフォーカス・福岡国際映画祭<再掲7-3>、アジア太平洋フェスティバル、福岡アジア文化賞<再掲8-6>]
- 農水産物のブランド化の推進
- [「ふくおかさん家(産地)のお気に入り」事業、★水産物ブランド化・流通対策事業、★一次製品のアンテナショップ等検討(一次産品海外マーケティング拠点施設検討事業)、★カキ養殖新技術推進事業]<再掲6-4>
- 福岡で「もう1泊」推進事業、夜の観光資源魅力強化事業
- 山笠魅力発信事業
- 動植物園再生事業<再掲4-4>
- 美術館大規模改修・リニューアル事業<再掲1-4>
- ★博物館の歴史・文化観光拠点化事業
- 特色ある公園づくり事業(友泉亭、金印公園、海の中道海浜公園)<再掲4-4>
- ◆さくら魅力アップ事業(★サザエさん通りを生かしたまちづくり、さわらの秋等)<再掲:早良区>

1 指標

《成果指標》

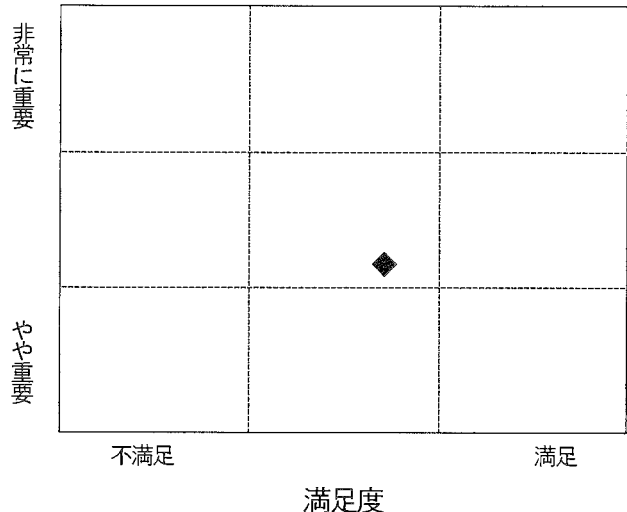
	初期値	2011年	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
入込観光客数 (日帰り)	1,152万人 (2010年)	1,168万人 (2011年)	1,214万人 (2012年)	1,200万人	1,250万人	(A)
入込観光客数 (宿泊)	490万人 (2010年)	510万人 (2011年)	526万人 (2012年)	620万人	750万人	(A)



《市民満足度調査(2013年度調査)》

満足度		重要度	
満足	29.7%	重要	54.1%
不満足	17.7%	非重要	7.0%
どちらでもない	49.9%	どちらでもない	34.7%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



2 現状分析

(1) 成果指標等の分析

- ・H24は国際ユニヴァーサルデザイン会議等の大規模な国際コンベンションの開催等により、入込観光客数全体としては過去最高であった。
- ・他方、入込観光客数(宿泊)の伸びは緩やかであったが、これは宿泊施設の改築等により一時的な客室数の減少が見られたためである。今後については、改築整備の状況等を注視していく必要がある。

(2) 主な事業の成果

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・福岡城むかし探訪館では、福岡城を最新のデジタルコンテンツ技術を用いて体験できるガイドツアーを開始し、イベント開催などの集客促進に取り組むことで、来館者数が対前年比で16.2%増加
H24: 34,691人→H25: 40,314人(+5,623人増)
- ・福岡城跡整備については、整備基本計画の原案を策定。今後、短期(5年スパン)と中期(6～15年スパン)の両面から、復元や修理を推進。
- ・NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送開始(H26.1)にあわせて、新聞広告、地下鉄駅構内の装飾やアピールライナーの運行を行うなど、市民の歴史認識を高め、まち全体を盛り上げる取組みを実施。
- ・吉武高木遺跡の整備について、芝生広場・多目的広場の公開を開始し、中央広場・遺構ゾーンBの基本設計及び実施設計を策定。
- ・鴻臚館の整備については、学識経験者からなる「鴻臚館跡整備検討委員会」において、意見交換等を行い、鴻臚館跡整備のための基本構想の検討作業を実施。史跡指定エリアの発掘調査は完了
- ・庚寅銘大刀については、将来にわたる保存活用のためのケースを製作。
- ・元寇防塁について、特設サイトの作成、「フビライ飯」の開発などを通じ、元寇防塁を活かした回遊を推進。
- ・志賀島における集客促進の取組みとして、金印カレーやカレーパンの開発とともに、景観スポットや歴史などを伝える周遊パンフレット「志賀島じゃらん」を作成。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・「もう一泊」の推進として、観光イメージブック「福岡よる旅」を作成し、三大都市圏や九州の女性層に向けてアプローチ。
- ・屋台営業者が、おもてなし屋台のあり方を、ワークショップを通して議論し、おもてなし宣言を行うなど、夜の観光資源である屋台の魅力向上を目的とした「福岡おもてなし屋台プロジェクト」を推進。
- ・博物館の常設展示を開館以来 22 年ぶりにリニューアル (H25. 11. 3) し、11 月～3 月の 5 か月は前年比で 2 倍以上の 59,030 人の観覧者数を達成。
- ・高い歴史文化資源を有する友泉亭公園の駐車場を拡張するなど来園者の利便性を向上。
入園者数 H25. 4 : 2,179 人→H26. 4 : 2,421 人
- ・H25. 10 リニューアルの動物園「アジア熱帯の溪谷エリア」は、動物本来の行動を観察できる新しい展示方法や日本初の試みである異種動物の混合展示が来園者から大好評。
*入場者数 H24 : 810,683 人→H25 : 954,855 人 (+144,172 人増)
- ・唐泊恵比須かきについては、市場流通調査及び国内外での可能性調査の結果、極めて高い成長の可能性があると判明。国内外での PR 活動やテスト販売等を実施。
- ・「アジアンパーティ」として、「アジアと創る」をコンセプトに、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞、アジア太平洋フェスティバル、The Creators 等の主要事業に加え、アジアとクリエイティブをテーマとした民間企業・団体等の各種事業と連携を図りながら、9 月～10 月に集中開催。(19 事業、約 49 万人が参加)
*アジアフォーカス・福岡国際映画祭：274 本の優れたアジア映画を上映したほか、監督や出演者を招いたイベントを実施。：来場者数：33,821 人 (過去最高)
*The Creators：市役所西側ふれあい広場で福岡最大級のプロジェクションマッピングなどのエンターテインメントイベントを実施：来場者数：延べ 7,000 人 (過去最高)
*アジア太平洋フェスティバル福岡：B to B (企業対企業の取引) アウトバウンド商談会を初めて実施。
来場者数：206,000 人、経済波及効果：23 億 67 百万円
- ・美術館リニューアルについて、最適な事業手法の選定を行えるよう、事業者ヒアリングを含めた PFI 導入可能性調査を実施。
- ・博物館が蓄積してきた歴史文化資源を、情報コンテンツ「てくてくミュージアム」として再構築し、AR 技術等を活用した常設展示と、博物館を起点とする歴史観光ルートを提示。

(3) 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等 (新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等)
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題
- ・少子高齢化が進展し、世界規模での都市間競争が激しさを増す中、福岡市の発展と成長を図るには、国内外との交流による経済活性化が必要。特に、観光産業は、裾野が広く、市民の 9 割が従事する第 3 次産業への波及効果も高いなど、福岡市の特性にあった産業である。
*観光客の消費金額 3,213 億円、経済波及効果 4,680 億円。3.3 万人の雇用、51.2 億円の税収が発生 (H22 推計値)
*目標： 観光客数 H22 : 1,642 万人 →H34 : 2,000 万人
観光客による直接消費額 1,700 億円増

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・鴻臚館、福岡城については、H26. 10 に舞鶴中学校跡地にガイダンス施設を設置するにあたり、福岡城むかし探訪館との一体的な管理運営が必要。
- ・吉武高木遺跡は、市内に残る貴重な歴史的資産として周知し、地域住民に限らず市民全体の史跡に対する理解を深めることが必要。
- ・舞鶴公園は鴻臚館・福岡城と二重の国史跡指定を受けている貴重な場所であり、観光地としての活用も踏まえながら、復元整備に向けて検討。

- ・福岡城整備は、幅広い財源の確保および市民等の参加意識や愛着の醸成等が課題。
- ・鴻臚館跡の保存活用に向けた適切な整備方針・計画の策定、鴻臚館跡全容の未解明部分の計画的な調査が必要。
- ・国に対し、舞鶴中学校跡地の民間活用による駐車場の早期整備の働きかけが必要。
- ・日本で唯一の歴史資源・元寇防塁については、案内サインの充実による回遊性向上の取り組みや情報発信などの継続的な実施が必要。
- ・志賀島については、食資源や景色・景観、歴史資源を活かした集客促進を図る必要があるが、人口減少及び高齢化が進行している。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・山笠・どんたくに代表される祭り、アジア太平洋フェスティバル・アジアフォーカス福岡国際映画祭やミュージックシティ天神などのイベント、また、魚介類・博多ラーメン・もつ鍋・水炊き・屋台など「食」の魅力、さらに、文化・スポーツ・エンターテインメントなど、豊かな魅力を持っているが、来福客に十分に伝わっていない。
- ・福岡で「もう1泊」推進事業について、発地側での訴求力、着地側での満足度を高めるため、イメージを具体化する情報発信や商品開発、イベント等を実施できる体制づくりが必要。
- ・屋台営業の適正化及び魅力向上のため、屋台営業に必要な上下水道等の環境整備の推進が必要。
- ・美術館リニューアルの事業者ヒアリングにおいて、特別企画展への関わり方や美術品の取扱いを懸念する意見もあり、官民の業務連携方法等の検討が必要。
- ・博物館を歴史・文化観光情報の発信拠点とするために、「人」「情報」「多言語化」の3つの視点のバランスをとりながら事業の推進が必要。
- ・「つなぐ、ひろがる」を目指した美術館のリニューアルについて、運営計画や事業手法の検討を推進。
- ・金印公園、友泉亭公園など高い歴史文化資源を有する公園について、さらなる活用の検討が必要。
- ・動物園再整備においては、動物の個別的特徴や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点からの魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。
- ・農畜水産物の新製品開発、ブランド化については、特に、唐泊恵比須かきは全国コンテストで2位となり、海外販売が始まり、カキ小屋が人気を博すなど、一定の成果を上げているが、観光資源となるにはさらなる取組み強化が必要。

3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）	（順調）
・成果指標はいずれも増加している。 ＊成果指標は、いずれも計画期間前の2012年の数値。 ・福岡城デジタルコンテンツ技術を用いた体験ツアー、動物園「アジア熱帯の渓谷エリア」リニューアル、屋台プロジェクト、博物館リニューアルなど、事業は概ね目標どおり進んでいる。	
4 今後の取組みの方向性	
●福岡の歴史資源の観光活用 ・鴻臚館、福岡城については、福岡城むかし探訪館及びガイドンス施設の一体的な管理運営、当時の鴻臚館や福岡城の姿を体感できるデジタル回遊システムの運用を推進。 ・福岡城整備については、「福岡城跡整備基本計画」（H26.6末策定）に基づき、計画的に実施するが、整備にあたっては、「福岡城整備基金」を設置し、市民と一体となった整備を推進。 ・鴻臚館整備については、H26n中に「整備基本構想」を取りまとめ、H27nにそれを踏まえた「整備基本計画」の策定作業に着手。 ・舞鶴中学校跡地及び校舎を活用して、休憩施設等のおもてなし環境を整備。 ・吉武高木遺跡については、H28nの公開を目指して、中央広場・遺構ゾーンBを着工。地域と連携を図り、継続的に活用について協議。	

- ・元寇防塁の案内板等を整備するとともに近くを通る福岡マラソンを契機に、元寇防塁に対する認知を高め、魅力をPR。
- ・志賀島については、地元や九州産業大学と連携した食や景色・景観や歴史資源のPR、情報発信ツールを開発。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・アジアンパーティについては、2年目となるH26n以降は特に市民に対して、その背景・趣旨や目的等をわかりやすく周知し、各事業における統一感を出せるよう、H25nの事業実施を踏まえ、より効果的な事業展開となるよう検討。
- ・アジアフォーカス・福岡国際映画祭については、アジアンパーティの主要事業の1つとして、映画だけでなく、映像分野を一体的に振興し、効果的な広報に努め、『クリエイティブ・エンターテインメント都市 福岡』のブランディングを推進。
- ・「The Creators」については、さらなる集客とブランディングを図るとともに、異業種間の連携促進によるビジネス創出やクリエイティブ関連産業の集積を支援。
- ・アジア太平洋フェスティバル福岡については、協賛方法の見直しを行い、より多くの協賛企業を募るとともに、出店料の見直しを行い、増収による自主財源を確保。また、中央公園や冷泉公園などの利用も検討し、天神・博多駅中心のイベントとして、会場周辺も巻き込み賑わいを創出。さらに、経済的側面を充実させるために、B to B ビジネスミッションを実施する上で、JATA との連携を強化するとともに、TV メディアなど新たな業種の参画を促進。
- ・「福岡よる旅」のイメージを定着させるための話題づくりとして、福岡の夜の観光の効果的な情報発信と、民間事業者を中心とした、夜が楽しい街・福岡を象徴するイベントの開催を実施。
- ・環境整備のあり方や、福岡のまちに屋台を残していくための新たな屋台営業者の公募制度を引き続き検討。
- ・民間事業者の意見を踏まえ、魅力ある美術館にリニューアルできるよう、公募条件等を整理。
- ・博物館においては、展覧会をはじめとする公開事業等を通じて、資料の歴史文化資源としての価値創出に努めるとともに、ユニバーサルなおもてなしの場として、来館者満足度の一層の向上を図る。
- ・動物園の次期リニューアルとなる「センターガーデンエリア」は、収益性の高いレストランや売店などの機能を併せ持つ複合施設が目玉となり、にぎわいや期待感の演出を計画的に実施。
- ・唐泊恵比須かきの更なるブランド化・販路拡大に向け、養殖新技術の推進に引き続き取り組むとともに、その他の農畜水産物についてもブランド化、新商品開発を推進。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

日本で唯一の歴史資源活性化事業		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部観光戦略課	25年度事業費	32,644 千円
				26年度事業費	22,250 千円
対象	福岡市内外 目「日本に一つしかない」重要な歴史・文化資源(鴻臚館跡、福岡城跡、元寇防塁、志賀島など)を観光資源として更に磨き上げ、魅力向上に取り組んでいく。				
前年度実施内容	【鴻臚館、福岡城】 当時の鴻臚館や福岡城の姿を体感できるデジタル回遊システムの運用開始。 【元寇防塁】 イベント開催による誘致促進、案内板等の整備やデジタル技術の活用についての検討。 【志賀島】 地元と連携したグルメの開発及び景色・景観や歴史資源も含めたPR、情報発信ツールの開発。				
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	デジタル回遊システムツアー参加者数	5,000	5,988	120%	A
成果の指標	福岡城むかし探訪館来館数	36,000	40,314	112%	
事業の進捗状況に関する補足	—				
鴻臚館・福岡城の整備①(鴻臚館跡整備基本構想事業)		所管課	経済観光文化局大規模史跡整備推進課	25年度事業費	6,709 千円
				26年度事業費	5,166 千円
対象	国史跡鴻臚館跡 目 鴻臚館跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。				
前年度実施内容	(株)アーバンデザインコンサルタントに委託を行い、鴻臚館跡整備のための基本構想の検討作業を行った。 基本構想の検討については、学識経験者からなる「鴻臚館跡整備検討委員会」において、意見交換等を行った。				
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	整備構想・計画の策定(単位:%)	50	50	100%	A
成果の指標	鴻臚館跡展示館の入館者(単位:人)	28,000	29,339	105%	
事業の進捗状況に関する補足	—				
鴻臚館・福岡城の整備②(福岡城跡整備基本計画事業)		所管課	経済観光文化局大規模史跡整備推進課	25年度事業費	7,726 千円
				26年度事業費	0 千円
対象	国史跡福岡城跡 目 福岡城跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。				
前年度実施内容	・学識経験者等からなる「福岡城跡整備基本計画検討委員会」を開催して基本計画の検討を行った上で、(株)ブレック研究所に委託し、基本計画原案を作成した。				
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	基本計画の策定進捗率(単位:%)	100	100	100%	A
成果の指標	福岡城むかし探訪館の入館者数(単位:人)	35,000	40,314	115%	
事業の進捗状況に関する補足	—				
吉武高木遺跡環境整備事業		所管課	経済観光文化局文化財保護課	25年度事業費	50,209 千円
				26年度事業費	83,314 千円
対象	市民 目的 早期整備を行い史跡地を一般に公開するとともに、市民が主体的に活用できる場として提供する。				
前年度実施内容	愛称を公募し、「やよいの風公園」に決定 芝生広場・多目的広場の公開開始 中央広場、遺構ゾーンBの基本設計及び実施設計策定 地元団体との協議により整備・活用に関する検討を行う 吉武高木遺跡整備指導委員会を開催し、整備内容に関する指導・助言を受ける				
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	整備工事完了面積(m ²)	7,000	7,000	100%	A
成果の指標	—	—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				

福岡で「もう1泊」推進事業		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部都市観光推進課	25年度事業費	7,898	千円
				26年度事業費	16,512	千円
対象	観光客	目「もう1泊したくなる街・福岡！」をテーマに、福岡市が持つ集客資源の魅力アップに向けたプロジェクトを 的 展開し、市内滞在時間の延長及びリピーターの確保を図る。				
前年	観光イメージブック「福岡よる旅」を中心とした福岡の夜の観光イメージの創出。					
度	①観光イメージブック「福岡よる旅」の制作・プロモーション ・3万部発行、3万部増刷、全国約2,000箇所で3万部設置・配布					
実	②観光イメージブック「福岡よる旅」を活用したイメージ発信					
施	・掲載画像のスライドショー動画作成・デジタルサイネージでの上映					
内	・関連グッズ（紙袋の製作）					
容	③「福岡よる旅」のイメージ波及に繋げるため、民間事業者へ素材提供する仕組みづくり					
		指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—		—	—	—	B
成果の指標	—		—	—	—	
事業の進捗状況 に関する補足	工夫をこらした配布方法等により、民間事業者による「福岡よる旅」のメー ジを活用する様々な協力 や企画へ繋がりがり始めている。					

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-2	緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり		
施策の方向性	都心に近い貴重な緑地空間として広く市民に親しまれている大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用を図り、市民の憩いと集客の拠点づくりを進めます。特に舞鶴公園については、歴史文化資源である「鴻臚館跡」、「福岡城跡」の二つの国史跡を活用した整備を進めます。		
施策主管局	住宅都市局	関連局	経済観光文化局

＜施策事業の体系＞ ★：新規事業 ◆：区事業 / 太字：重点事業 その他：主要事業

(施策5-2) 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

●市民の憩いと集客の拠点づくり(大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等)

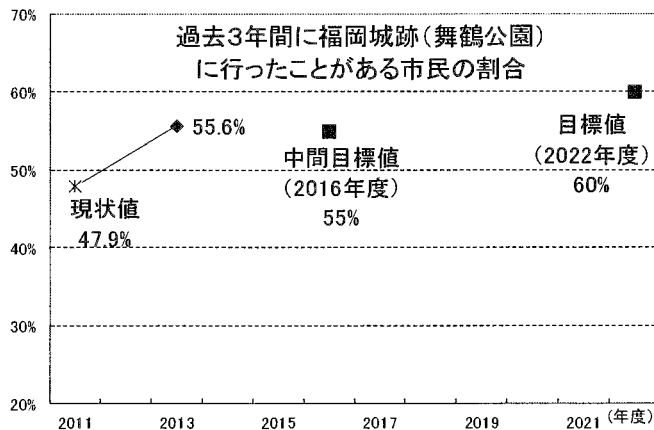
★セントラルパーク構想推進事業

鴻臚館・福岡城の整備[鴻臚館跡整備基本構想事業、福岡城跡整備基本計画事業、福岡城集客機能検討]＜再掲5-1＞

1 指標

＜成果指標＞

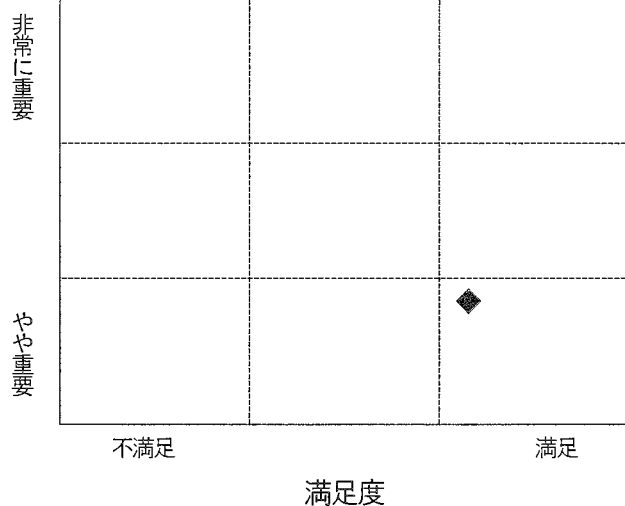
	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合	47.9% (2011年度)	55.6% (2013年度)	55%	60%	A



＜市民満足度調査(2013年度調査)＞

満足度		重要度	
満足	34.8%	重要	48.4%
不満足	11.6%	非重要	8.3%
どちらでもない	50.7%	どちらでもない	39.1%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



2 現状分析	
(1) 成果指標等の分析	
・現在はセントラルパーク構想などの計画に基づく整備着手前であり、今後整備を進める中で、市民の関心や満足度がどのように推移するか注視する必要がある。	
(2) 主な事業の成果	
●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等） ・セントラルパーク構想について、県市で合同事務局を設置した上で、「セントラルパーク構想委員会」を開催し、構想原案を検討。県・市で歩調を合わせて実施したパブリック・コメントによる意見を踏まえ構想案を作成。 ・福岡城エリアの集客向上のために必要な機能の検討を行った。 ・福岡城の整備について、「福岡城跡整備基本計画検討委員会」を開催し、基本計画原案を検討し、パブリック・コメントによる意見を踏まえ基本計画案を作成。 ・鴻臚館整備について、「鴻臚館跡整備検討委員会」において意見交換等を行い、鴻臚館跡整備のための基本構想の検討作業を実施。 * 鴻臚館の史跡指定エリアの発掘調査は、H25n に完了	
(3) 施策推進上の課題	
・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等） ・施策、事業を進めていく上での主な課題	
●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等） ・セントラルパーク構想推進事業については、非史跡施設（福岡高等裁判所、城内住宅、運動施設等）の早期城外移転が必要。 ※場内住宅移転率：71% ・樹木の整理や修景・再整備に関する市民の理解（緑への愛着、生物多様性等）促進が必要。 ・着実な構想実現に向けて推進体制の強化（県市の連携、行政分野間の連携等）が必要。 ・舞鶴公園は鴻臚館・福岡城と二重の国史跡指定を受けている貴重な場所であり、観光地としての活用も踏まえながら、復元整備に向けた検討を進めることが必要。 ・福岡城整備については、幅広い財源の確保および市民等の参加意識や愛着の醸成等が課題。 ・鴻臚館整備については、鴻臚館跡の保存活用に向けた適切な整備方針・計画の策定、鴻臚館跡全容の未解明部分の計画的な調査が必要。（発掘調査完了率：3.7ha/48.0ha=7.7%） ・国に対し、舞鶴中学校跡地の民間活用による駐車場の早期整備に向けた働きかけを行っている。	
3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）	順調
・成果指標は増加している。 ・セントラルパーク構想案作成など、事業は目標どおり進んでいる。	
4 今後の取組みの方向性	
●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等） ・セントラルパーク構想を早期に策定し（H26.6）、策定後速やかに、県との連携組織を設置。 ・セントラルパーク基本計画について、専門家からなる検討委員会を設置し、検討を推進。 ・非史跡施設の移転について、関係機関と連携しながら、具体化・事業化に向けた検討を推進。 ・福岡城整備については、「福岡城跡整備基本計画」（H26.6策定）に基づき、計画的に実施するが、整備にあたっては、福岡城整備基金を設置し、市民と一体となり段階的に推進。 ・石垣や既存の建物などを見やすくするため、城内の樹木の適正な密度管理を推進。 ・鴻臚館整備については、H26n中に「整備基本構想」を取りまとめ、H27nにそれを踏まえた整備基本計画の策定作業に着手。 ・舞鶴中学校跡地及び校舎を活用して、休憩施設等のおもてなし環境を整備。	

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

セントラルパーク構想推進事業		所管課	住宅都市局みどりのまち推進部 みどり政策課	25年度事業費	13,849 千円
				26年度事業費	11,000 千円
対象	①県民・市民 ②国内外からの来街者	目的	①都心に近い貴重な緑地空間である大濠公園・舞鶴公園が一体となって日常的な憩いの場として利用されている状態 ②両公園が貴重な観光資源として磨き上げられ、魅力的な観光地となっている状態		
前年度実施内容 ・構想策定業務について委託を発注し、史跡関連計画等との整合を図りながら、県市の合同事務局にて検討を行った。 ・学識経験者等20名からなる構想委員会を4回開催（公開）し、構想案の検討を行った。 ・県と市で歩調を合わせて、構想原案についてのパブリック・コメント手続きを実施し、いただいた意見を踏まえて構想案の作成を行った。					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	セントラルパーク構想の策定（％）	100.0	90.0	90%	A
成果の指標	過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合（％）	50.7	55.6	110%	
事業の進捗状況に関する補足	—				

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-3	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり		
施策の方向性	おもてなしの心を醸成するための市民参加事業や啓発事業、観光ボランティアの充実などにより、市民一人ひとりが誇りと自覚をもてる観光都市福岡づくりを進めます。また、交通便利性の向上やユニバーサルデザインの普及などにより、快適にまちめぐりができ、外国人を含め多くの人が何度でも行ってみたいと感じる環境づくりをめざします。		
施策主管局	経済観光文化局	関連局	市長室、住宅都市局、道路下水道局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

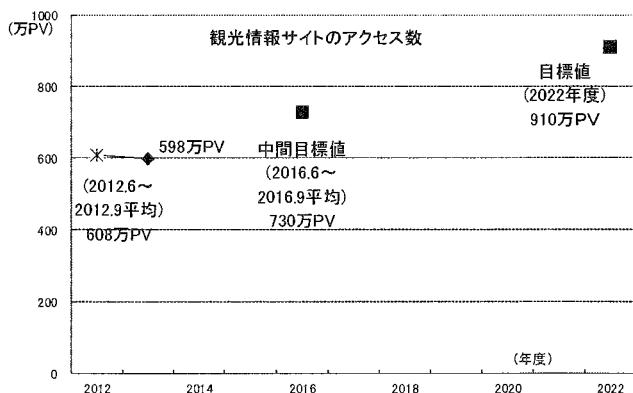
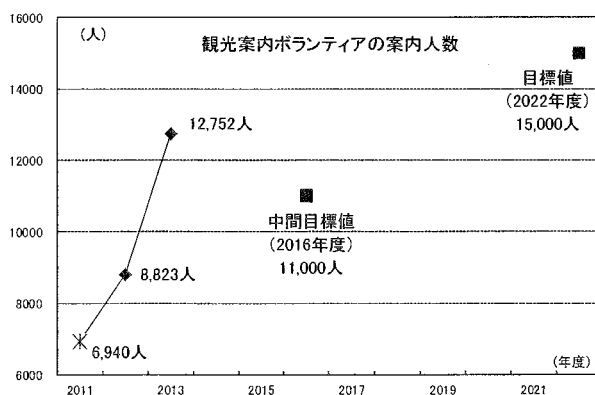
(施策5-3) 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

- おもてなしの向上
 - まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化
 - ★観光客にやさしいまちづくり事業
 - 都心のまちづくりの推進(都心のエリアマネジメントの推進)＜再掲4-6＞
 - 外国人向け観光情報サイトの機能強化
 - 公衆無線LAN環境整備
 - ◆おもてなしの人材活用事業＜再掲:博多区＞
- 交通便利性や都心回遊性の向上
 - ★快適で高質な都心回遊空間の創出事業(にぎわい創出空間検討等)
 - 来訪者をもてなす道づくり(都市サインの整備、道路緑化等)
 - ★都心部観光バス対策事業＜再掲8-1＞
 - ◆都心部まちめぐり推進事業＜再掲:中央区＞

1 指標

《成果指標》

	初期値		現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
観光案内ボランティアの案内人数	6,940人 (2011年度)	8,823人 (2012年度)	12,752人 (2013年度)	11,000人	15,000人	A
観光情報サイトのアクセス数(観光情報サイト「よかなび」の月間PV(ページビュー))	608万PV (2012年6月～9月平均)		598万PV (2013年6月～9月平均)	730万PV (2016年6月～9月平均)	910万PV	C

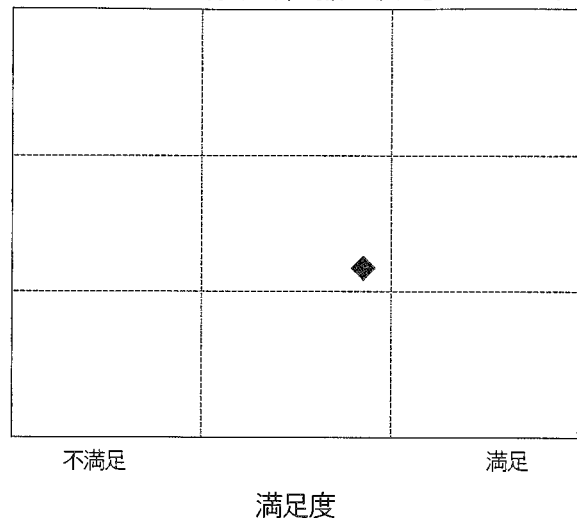


《市民満足度調査（2013 年度調査）》

満足度		重要度	
満足	27.1%	重要	51.1%
不満足	11.5%	非重要	7.0%
どちらでもない	58.5%	どちらでもない	37.8%

非常に重要
重要度
やや重要

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



2 現状分析

（1）成果指標等の分析

- ・観光案内ボランティアは大河ドラマ「軍師官兵衛」放映開始により、黒田家ゆかりの地へのまち歩きの一環が高まり、予想を上回る利用があった。
- ・観光情報サイトのアクセス数は増加（+24,673 対前年 5%）し、アクセス数（6 月～9 月平均）も中国語（繁体字）・英語が増加しているものの、日本語・中国語（簡体字）が減少したことにより、全体として減少（△104,487 対前年△2%）している。

（2）主な事業の成果

●おもてなしの向上

- ・外国人おもてなしセミナー（105 名参加）、外国人おもてなし英会話講座（延べ 60 名受講）の開催や、ムスリムフレンドリーマップの作成（1 万部）。
- ・外国人向け観光情報サイトの機能強化、英語版アプリの開発、オランダ語ページの追加。

●交通利便性や都心回遊性の向上

- ・都心回遊性の向上に関する取組みは、水辺や花・みどり、歴史・観光など多岐にわたる施策との整合、財政負担の平準化を図ることが必要であることから、庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。
- ・博多部への集客拡大、周辺への回遊促進に向けた方策検討のための調査を実施。
- ・国道 202 号春吉橋架け替え事業に合わせ、にぎわい創出空間としての活用を検討。
- ・歴史に配慮した道づくりとして承天寺・住吉神社周辺の道路整備、来訪者に分かりやすく道案内をするための都市サインの整備を実施。

（3）施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●おもてなしの向上

- ・外国人旅行者が日本旅行中に主に不満を感じるのは言葉が通じないことであり、とりわけ案内所、宿泊施設、交通機関、飲食施設等で不便を感じる人が多い。
- ・九州新幹線的全線開通等により、九州における福岡の集客力はさらに向上。特に、天神・博多の二大商業地域には、九州だけでなくアジアからも、多くの人観光や買い物で訪問。また、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」効果などを受けて、より一層増加の見込み。
- ・都心部における観光バスの乗降場の整備場所が確保できていない。
- ・観光案内ボランティアへの需要の増加や、外国語での案内希望に対する対応が不十分。

●交通利便性や都心回遊性の向上

- ・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、地下鉄七隈線の延伸や民間ビルの更新などの開発機運を捉え、戦略的な推進が必要。
- ・都心部では、施設案内や道路標示など様々なサインの統一感がなく、デザインの統一や多言語表記が必要。

3 施策の評価（１・２を踏まえた施策の進捗状況）

概ね順調

- ・観光案内ボランティア案内人数に関する成果指標は増加している。観光情報サイトアクセス数に関する成果指標は減少している。
- ・外国人向け観光情報サイトの機能強化、都心回遊の事業化に向けた検討など、事業は概ね目標どおり進んでいる。

4 今後の取組みの方向性

●おもてなしの向上

- ・案内所、宿泊施設、交通機関、飲食施設等を対象に語学研修の実施など、外国人旅行者の受入態勢強化。
- ・観光案内ボランティアガイドの育成、多言語対応の充実・強化を推進。
- ・観光従事者を対象に実施するセミナーや語学研修等について、より現場に即した内容にするとともに、東南アジア等、今後需要拡大が見込まれる市場を対象に、マーケティングや招請事業をととして、外国人旅行者に対する受入環境の整備を図っていく。

●交通利便性や都心回遊性の向上

- ・引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進。
- ・都市サインや彫刻に関しては、都心部の回遊促進に寄与する装置として適正に設置。
- ・事業の着実な推進と市費の負担軽減のため、国の補助制度の活用など、必要な予算を確保。
- ・福岡市総合交通戦略協議会の分科会において、観光バス受入環境の整備について関係機関と検討。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化①（観光案内ボランティアの充実強化）		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部観光振興課	25年度事業費	8,344	千円
				26年度事業費	9,314	千円
対象	福岡市民・福岡を訪れる観光客 目的 福岡市を訪れる多くの訪問客に、ガイドの巧みな話術とおもてなしで、快適にまちをめぐり、魅力に触れて満足していただくことで、福岡市のファンを増やす。					
前年度実施内容	・本市で開催される大会・学会や祭り等の参加者に対する案内 ・派遣依頼に伴う観光案内活動 ・博多町家ふるさと館の館内や周辺寺院等の案内 ・博多情緒めぐりキャンペーンの「ガイドと街歩き」事業での案内 ・H24.3より、市役所ロビーに2名、町家ふるさと館前に1名を12/28～1/3を除く毎日常駐。観光案内、定時ツアーを行った。 ・H25.6より、福岡城むかし探訪館にて週4日（月水金日）常駐。タブレットを使ったツアーを行った。					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	観光案内ボランティアの案内人数	8,460	12,073	143%	A	
成果の指標	—	—	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化②（歴史・文化遺産まち歩き）		所管課	経済観光文化局文化財部文化財保護課	25年度事業費	6,962	千円
				26年度事業費	2,150	千円
対象	これまで文化財に関心の薄かった市民。市外からの観光客 目的 文化財の存在を知ってもらい、保護意識を高めてもらうきっかけとする。 ・福岡の歴史と文化財を他の観光資源と結びつけて、より幅の広い観光をしてもらう。					
前年度実施内容	・24nに制作したスマートフォンアプリに、まち歩きルートを掲載し、実際の運用を開始した。 ①7月24日、「中世博多の繁栄」ルートを公開。 その後、 ②12月25日、「福岡城と城下町」ルートとして4コース追加、並びにi-OSバージョンアップへの対応、よかなびとのリンクなど機能の改修と追加を実施。 ③3月28日、「近代遺産」ルートの追加。福岡市の文化財ホームページとのリンク強化。					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	製作するガイダンスシステムのコース数（単位ルート）	2	3	150%	B	
成果の指標	システムのダウンロード数（運用開始は25年度から）	20,000	17,128	86%		
事業の進捗状況に関する補足	—					
観光客にやさしいまちづくり事業①		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部PR・コミュニケーション推進課	25年度事業費	1,941	千円
				26年度事業費	1,500	千円
対象	外国人旅行者と接する機会が多い観光従事者等 目的 外国人旅行者に対し、語学や文化などの面でストレスなくサービスを提供できている状態					
前年度実施内容	観光従事者を対象としたセミナー・英会話講座を開催。 ①外国人おもてなしセミナー 内容：福岡市のインバウンドの必要性・可能性についての講演 講師：（旧）楽天トラベル株式会社 代表取締役社長 山本 孝伸氏 参加者：105名 ②外国人おもてなし英会話講座 内容：業種に応じた基礎英語力（語彙・表現）を高めるための講座 宿泊施設、商業・観光施設、交通機関の3業種に各2回ずつ実施 参加者（のべ人数）：60名 内訳 宿泊施設 17名 商業・観光施設 28名 交通機関 15名					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	研修受講者数	100	165	165%	B	
成果の指標	入込観光客数（海外）	—	1,000,000	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
観光客にやさしいまちづくり事業②		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部PR・コミュニケーション推進課	25年度事業費	1,740	千円
				26年度事業費	1,350	千円
対象	国内外の旅行者 目的 福岡市内の回遊性の高さにより、滞在時に高い満足度を得られている状態をつくる。					
前年度実施内容	・福岡市への来訪者を増加させるため、市内の回遊性をPRする広報事業を実施 (1) 福岡オーブントップバス 人口150万人突破記念事業の一環として、市民150名の無料招待を実施 (2) FUKUOKA TOURIST CITY PASS 実際に福岡を訪れる方々に対して、効果的・効率的にPRを実施するため、香港等において、来福旅行商品の造成を行った旅行社等にバスを配布した。					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	広報事業の実施回数	2	2	100%	A	
成果の指標	入込観光客数（国内）	—	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					

快適で高質な都心回遊空間の創出事業		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部都市観光推進課	25年度事業費	3,348	千円
				26年度事業費	0	千円
対象	観光客	目的	博多部エリアの一体的な魅力向上と観光客の博多部エリアへの誘導機能の強化			
前年度実施内容	①博多部への集客拡大、周辺への回遊促進に向けた方策の検討のための調査 ・博多部エリアにおける観光資源の現状 ・博多部を回遊するうえでの問題点の抽出 ・楽しく快適な街歩きの実現に向けた回遊促進策の提案 ②都心回遊強化推進会議「御供所・冷泉プロジェクト」への参加、連携 ・調査実施にかかる協議、調整。 ・プロジェクトへの調査結果報告					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	—	—	—	—	B	
成果の指標	—	—	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	「都心回遊強化推進会議」のプロジェクトとして、所管課と協議しながら各種調査を実施し、調査結果を共有。					
快適で高質な都心回遊空間の創出事業		所管課	住宅都市局都市づくり推進部都心再生課	25年度事業費	5,775	千円
				26年度事業費	4,000	千円
対象	都心部において働く人、住む人、訪れる人など、あらゆる人	目的	回遊性強化により、都心部の拠点同士の相乗効果が発揮され、都心部全体の集客力・活力が向上する。 ・歩いて楽しく、魅力ある回遊空間の形成により、働く人、住む人、訪れる人の心に残る美しいまちとなる。			
前年度実施内容	・都心回遊に関する庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて、事業の全体最適化を図った。 （事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案・予算化） ○快適で高質な都心回遊空間の創出事業【4,000千円】 ・天神明治通りにおいて、歩道再整備や管理に係る官民連携方策の検討 ・水辺空間の活用方策の検討 ・那珂川沿いの各公園を一体的に捉え、回遊性向上など将来の全体的な活用方策の検討					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	エリマネ組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数 エリマネ組織等による公開空地等でのイベント開催件数	40 8	71 5	178% 63%	B	
成果の指標	都心部の1日あたりの歩行者交通量（天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計（平日7時～20時））（万人）	10.7	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
快適で高質な都心回遊空間の創出事業		所管課	道路下水道局計画部道路計画課	25年度事業費	226,000	千円
				26年度事業費	81,700	千円
対象	都心部の道路空間、及び国内外からの来訪者	目的	国際競争力の高い都心部となることで、多くの国内外からの来訪者が交流し、福岡都市圏及び九州の活力を牽引している。			
前年度実施内容	○賑わい創出空間の検討＜春吉橋周辺＞ ○明治公園再整備＜自転車駐車場整備＞					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	—	—	—	—	B	
成果の指標	都心部を回遊する歩行者交通量（人）	34,000	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	明治公園の自転車駐車場の整備については、26年度に完了。					

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-4	交流がビジネスを生むMICE拠点の形成		
施策の方向性	福岡都市圏内の大学、会議場、ホテルなどと連携しながら、会議、展示、飲食、宿泊などのMICEを支える多様な要素が一体として機能するよう、MICEの拠点機能を高めます。 また、ウォーターフロントに集積するコンベンション機能を強化するため、新たな展示場の整備や天神・博多駅との回遊性向上を進めます。 さらに、助成金やおもてなし事業による開催支援や地元企業とのマッチング支援などにより、リピーターの確保や新たなビジネスの創出など、地元経済への波及効果を高めます。		
施策主管局	経済観光文化局	関連局	総務企画局、住宅都市局、港湾局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-4)交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

●MICE機能の強化

— コンベンション機能強化の検討

— 都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化の検討<再掲4-5>

— 産学官民連携による国際競争力強化事業<再掲6-1>

— 中央ふ頭整備事業(にぎわいづくり、回遊性向上、景観整備等)<再掲8-1>

●MICE誘致の推進

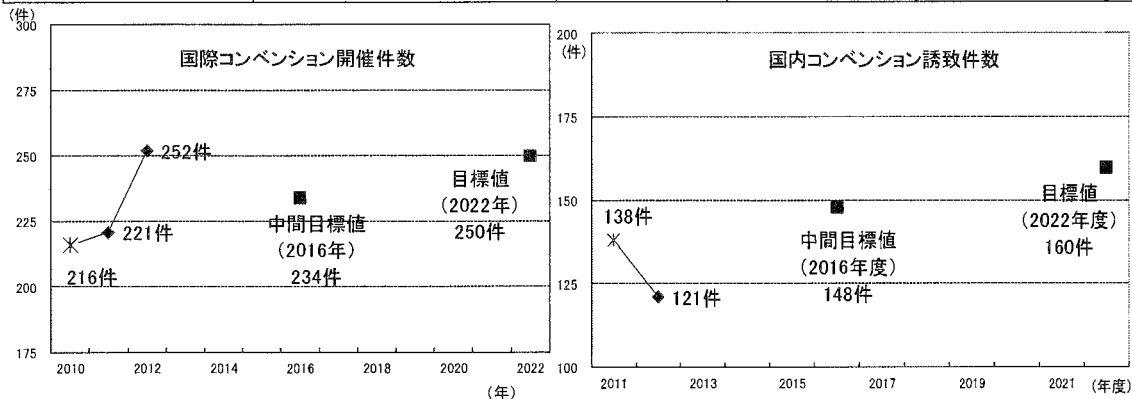
— MICE誘致推進事業

— MICE開催支援事業

1 指標

《成果指標》

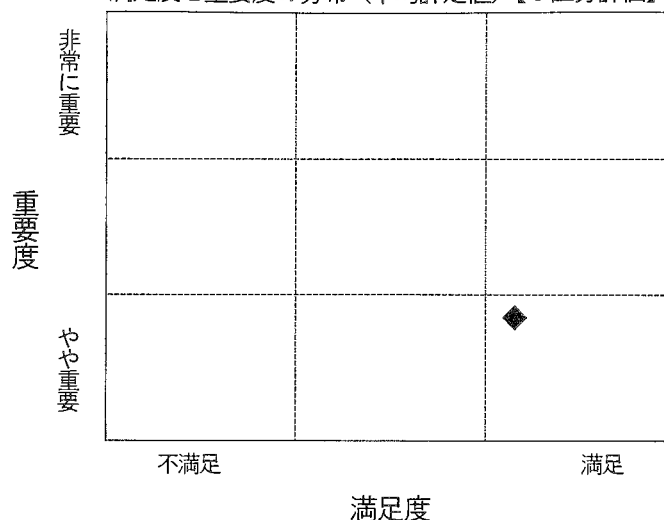
	初期値		現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
国際コンベンション開催件数	216件 (2010年)	221件 (2011年)	252件 (2012年)	234件	250件	(A)
国内コンベンション誘致件数	138件 (2011年度)		121件 (2012年度)	148件	160件	(C)



《市民満足度調査（2013 年度調査）》

満足度		重要度	
満足	25.1%	重要	42.3%
不満足	8.9%	非重要	10.4%
どちらでもない	62.6%	どちらでもない	42.8%

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



2 現状分析

（１）成果指標等の分析

- ・本市の年間国際会議開催件数は 252 件 (H24) で、目標値を上回っている。（件数は 4 年連続で国内第 2 位。国際会議世界ランクでは 97 位。）
- ・国内会議の誘致件数は 121 件 (H24n) となっており、前年度から減少している。

（２）主な事業の成果

●MICE 機能の強化

- ・第 2 期展示場（展示面積 5, 000 m²程度）については、予定地をマリンメッセ福岡の南側区域とし、事業手法は、民間ノウハウの活用、財政負担の軽減及び平準化の面から PFI（BT0）方式の方向で検証。
- ・都心部とウォーターフロントとの交通アクセスでは、臨時バスのルート変更により臨機応変な運行が可能となり、定時制・速達性・柔軟性が向上。また、バス停案内の充実等によりわかりやすさが向上。

●MICE 誘致の推進

- ・MICE 主催者へのコンベンション開催助成金の交付や、主催者や参加者のニーズを踏まえた開催支援を実施するとともに福岡観光コンベンションビューローの国際機関（ICCA）への加入（H25. 4）や、海外への国際会議等の商談会・見本市に出展。
- ・H25. 6 に国の「グローバル MICE 戦略都市」への選定（全国 5 都市の一つ）を受け、H25. 8 以降、観光庁とともに海外プロモーションなどを実施。
- ・産学官民連携組織である福岡地域戦略推進協議会（FDC, H23 創立）において策定された MICE 戦略に基づき、MICE の誘致・企画・支援と産業振興に特化した組織「Meeting Place Fukuoka」の設置に向けて準備。（H26. 4 設置）

（３）施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●MICE 機能の強化

- ・ウォーターフロントエリアにおいて、ホテルの誘致や商業・飲食施設などの立地を図りにぎわいを創出するため、民間の活力やノウハウを最大限活用した事業手法等についてさらなる検討が必要。
- ・都心部（ウォーターフロントエリア、天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区）は、特定都市再生緊急整備地域に指定されており（H24. 1）、各地区の機能強化と相互の回遊性強化が重要である。交通アクセス強化に資する交通手段やルートの方方向性決定にあたっては、交通管理者や道路管理者、交通事業者とのさらなる連携強化が必要。

●MICE 誘致の推進

- ・「Meeting Place Fukuoka」の活動内容と運営体制の強化が必要。
- ・MICE 推進の課題として、地域の独自性や特別感が感じられる施設や空間を MICE の開催場所として活用することが海外に比べて遅れを取っており、福岡市においてもその積極的な展開が求められている。このため、公共空間などを活用したユニークベニューの開発が必要。

3 施策の評価（１・２を踏まえた施策の進捗状況）

（概ね順調）

- ・国際コンベンションに関する成果指標は増加している。国内コンベンションに関する成果指標は減少している。

＊成果指標は、計画期間前の 2012 年の数値。

- ・２期展の事業手法の検討、「Meeting Place Fukuoka」の設置など事業は概ね目標どおり進んでいる。

4 今後の取組みの方向性

●MICE 機能の強化

- ・コンベンションゾーンの機能強化を図るため、第２期展示場については、事業実施に向けて PFI 導入可能性調査を実施。
- ・コンベンションを支援するホテルや賑わいを創出する商業・飲食施設などの誘致については、民間事業者の意向を把握しながら、実現に向けた具体的検討を推進。
- ・ウォーターフロント地区内の回遊性や交通の円滑化を図るため、歩行者デッキの整備や効果的な交通処理方策を検討。
- ・都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化に資する交通手段やルートの方針性を決定し、より詳細に検討。
- ・都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化では、検討中の第２期展示場の整備計画との整合を図り検討。また主要な交通結節点における乗換案内誘導を強化するため施設管理者や交通事業者と連携。

●MICE 誘致の推進

- ・国際競争力のある MICE ワンストップ体制を構築するとともに、福岡市独自のユニークベニューの開発、MICE を通じたビジネスマッチングを行うこと等により、福岡での MICE 開催の魅力を高め、国内外へ発信することにより再来訪や新たな誘致を獲得。
- ・H28 に開催されるライオンズクラブ国際大会では、MICE ビューローを中心に関係機関と協力し、オール福岡で大会を開催。
- ・国家戦略特区における規制改革事項である「エリアマネジメントの民間開放」「古民家等の歴史的建築物活用のための適用除外」を活用し、公道や古民家等を活用した MICE 開催を行うことにより、MICE の誘致・開催促進を図る。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

コンベンション機能強化の検討	所管課 経済観光文化局観光コンベンション部第2期展示場整備担当	25年度事業費	15,000 千円
		26年度事業費	63,348 千円

対 本市コンベンションゾーンに 目的 コンベンション施設が集積するウォーターフロントのコンベンションゾーンにおいて、新たな展示場を整備
象 おけるコンベンション施設 するとともに、ホテルの誘致(宿泊機能やバンケット機能)、飲食店などの賑わい創出により、コンベンション機能を強化する。

前年度実施内容

MICE機能強化を図るため、第2期展示場の整備やホテルの誘致、にぎわいの創出などに向けて、主に以下の検討を実施

- ・コンベンション施設の一体性・連続性を考慮した、MICE機能強化の方向性や施設整備の基本的な考え方
- ・コンベンションゾーン周辺における車両、歩行者の現況交通量等の調査
- ・第2期展示場等の事業手法について

	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—	—	—	—	B
成果の指標	—	—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	第2期展示場等の整備計画(案)の策定に向けて、施設計画、事業手法の検討実施。				

MICE誘致推進事業(MICE開催支援等推進事業)	所管課 経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課	25年度事業費	82,749 千円
		26年度事業費	73,993 千円

対 MICE主催者 目的 積極的な誘致活動を行うとともに、MICE開催支援を通じて福岡でのMICE開催の魅力を高め、国内外への発信することにより再来訪や新たな誘致につなげる。

前年度実施内容

- ・国際機関(ICC)への加入や、海外への国際会議等の商談会・見本市への出展。
- ・MICE開催者への助成金、主催者や参加者のニーズを踏まえた開催支援を実施。
- ・国の「グローバルMICE戦略都市」(全国5都市の一つ)への選定を受け、観光庁と共同で事業を実施した。
- ・MICEの誘致・企画・支援、産業振興に特化した組織としてMeeting Place FukuokaをH26.4に設置。

	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	国内・国際会議誘致提案案件の増加	—	—	—	
成果の指標	国内・国際会議開催件数	364	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	MICE誘致件数増加につなげるため、上記の取り組みを通して、MICE誘致推進の強化を図った。				

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-5	国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興		
施策の方向性	国際スポーツ大会や全国レベルの大会の開催地、合宿地としての誘致・支援を行うとともに、地元プロスポーツの振興を図ることなどにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会を提供し、市民スポーツの振興を推進します。		
施策主管局	市民局	関連局	経済観光文化局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

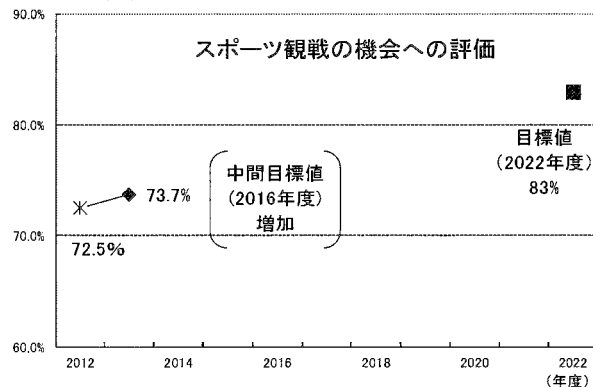
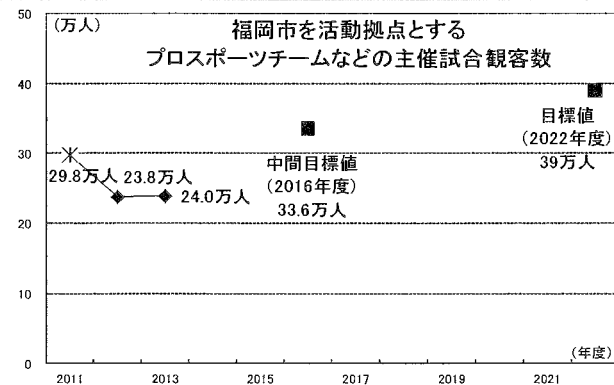
(施策5-5) 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

- 国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援
 - 国際スポーツ大会等の誘致・開催
〔大規模スポーツ大会誘致・開催支援、スポーツコミッション事業〕
 - 拠点体育館整備<再掲1-5>
- プロスポーツの振興
 - アビスパ福岡活用・支援
 - 大相撲九州場所支援事業

1 指標

《成果指標》

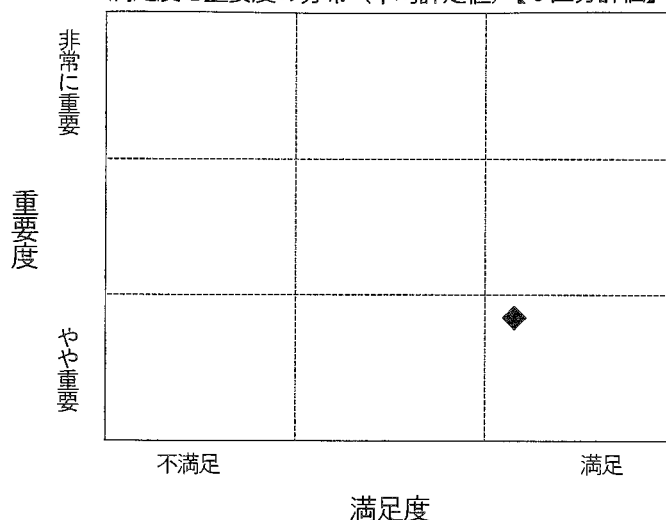
	初期値		現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数（福岡ソフトバンクホークスを除く）	29万8千人 (2011年度)	23万8千人 (2012年度)	24万人 (2013年度)	33万6千人	39万人	C
スポーツ観戦の機会への評価（福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思う市民の割合）	72.5% (2012年度)		73.7% (2013年度)	増加	83%	A



《市民満足度調査（2013 年度調査）》

満足度		重要度	
満足	27.3%	重要	42.2%
不満足	10.6%	非重要	10.6%
どちらでもない	58.9%	どちらでもない	42.8%

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



2 現状分析

（1）成果指標等の分析

- ・スポーツ観戦の機会への評価は、順調に伸びつつあるが、主催試合観客数については、アビスパ福岡がJ2にとどまる中、伸び悩んでいる。

（2）主な事業の成果

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・福岡市で開催されたスポーツ大会に対し、コンベンション開催助成金の交付や各種パンフレットの提供、広報活動協力などの支援を実施。
- ・中でも、フィギュアスケート・グランプリファイナル 2013 (H25. 12) では、日本スケート連盟などと協力し、小・中学生観戦招待、バックヤードツアー等を実施。また、再来福につながるおもてなし事業として、歓迎バナーの掲出やマップの作成等を実施。
- ・H27 の世界陸上競技選手権大会（中国北京）の事前合宿地として、イギリス陸上競技連盟視察を受入れ (H25. 9, H26. 3)。
- ・H32 の東京オリンピックの事前合宿地として、スウェーデンオリンピック委員会視察受入れ準備を実施。 (H26. 4 視察)
- ・日本で開催されるラグビーワールドカップ 2019 について、試合会場・キャンプ地として、誘致に向けて情報収集。
- ・福岡マラソンの大会運営に係る協賛金の確保や、開催に向けた準備に着手するとともに、関係機関・団体との協議、コース沿道の地域住民及び事業者等への説明を実施し、コース及び競技種目等を設定。
- ・新たな拠点体育館の整備については、基本計画を策定 (H25. 4)、公表するとともに、PFI (BT0) 方式により事業化を進めていくことに決定。

●プロスポーツの振興

- ・アビスパ福岡を活用して、サッカー教室などを実施。また、アビスパ福岡への支援として、試合観戦招待、スポーツ大会等の広告看板の掲出。
- ・大相撲九州場所への支援として、街路灯バナーの掲出、CM 映像の放映等を実施。

（3）施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・新規国際スポーツ大会等の開催や事前合宿についての情報収集が不十分。
- ・ラグビーワールドカップ 2019 の試合会場の誘致は、会場に求められる諸条件を確認の上で検討が必要。

- ・H26.11 の福岡マラソン開催を、市民スポーツの振興・健康づくり、福岡の都市の魅力の発信等につなげていくことが必要。
- ・福岡市では、国際的、全国的規模の各種スポーツ大会を毎年開催。トップレベルのスポーツ観戦は市民に夢や希望を与え、市民スポーツの振興にも寄与するため、市民がトップレベルの競技に触れる機会の提供が必要。
- ・九電記念体育館の土地の使用期限がH31n 末までであり、後継施設の整備が急務。
- ・体育館や屋外の競技場などの施設について、老朽化や、大規模な国際スポーツ大会の開催基準に満たないものがあることが課題。

●プロスポーツの振興

- ・ソフトバンクホークス、アビスパ福岡に加え、J・アンクラス、ライジング福岡など多彩なプロスポーツチーム等が活動しているほか、大相撲九州場所の開催など、福岡市のスポーツ観戦環境は恵まれているが、歴史や知名度が低いチーム等はその活動の周知が不十分。(ホークスを除くプロスポーツ試合観客数 H25n : 240,337 人)
- ・アビスパ福岡の観客数は伸び悩んでおり、経営状況は厳しい。

3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）	概ね順調
・スポーツ観戦の機会に関する成果指標は増加している。プロスポーツ観客数に関する成果指標は減少している。 ・フィギュアスケートの開催や新たな拠点体育館の基本計画策定、福岡市が大規模国際スポーツ大会の合宿地候補に上がるなど、事業は概ね目標どおり進んでいる。	
4 今後の取り組みの方向性	
●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援 ・新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会の開催について、庁内関係課、観光コンベンションビューロー、各種競技団体やパートナー都市協定締結した JOC と連携して、福岡市への誘致の可能性がある大会の調査や誘致に向けたプロセスの整理を行い、それをもとにマーケティング・誘致活動を実施。 ・世界陸上競技選手権大会、オリンピックについて、事前合宿地等として誘致活動を展開。 ・ラグビーワールドカップについて、試合会場や合宿地の誘致に向けて、調査・検討を実施。 ・福岡マラソンについては、ランナーのみならず、ボランティアや沿道応援を通して多くの市民が大会に関わる仕組みをつくり、福岡の風物詩となるよう継続開催を目指す。 ・市民が身近に高いレベルのスポーツに触れ、交流できる機会を創出するため、大規模スポーツ大会の開催、誘致を推進。 ・新たな拠点体育館の整備について、九電記念体育館の閉館に間に合うよう着実に整備を推進。 ●プロスポーツの振興 ・各プロスポーツへの関心向上や観客数増加のため、継続した広報活動や市民とのスポーツ交流活動を支援。 ・アビスパ福岡については、経営状況を把握しながら、継続して支援。	

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

国際スポーツ大会等の誘致・開催①（大規模スポーツ大会誘致・開催支援）		所管課	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	25年度事業費	92,865	千円
				26年度事業費	106,717	千円
対象	スポーツに興味・関心のある市民	目的	スポーツを見る・する・支える人口を増加させる。			
前年度実施内容	○福岡マラソン開催に向けた検討 事業運営を行う委託業者を決定し、大会運営に必要となる協賛金の確保と開催に向けた準備に着手。 関係機関・団体との協議、コース沿道の地域住民及び事業者等への説明を実施し、コース及び協議種目等の設定を行った。 交通量等調査の実施（委託） 他都市大会調査の実施 ○フィギュアスケート・グランプリファイナル 日本スケート連盟などと協力し、小・中学生観戦招待、バックヤードツアー等を実施					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	福岡マラソン参加エントリー倍率	—	—	—	A	
成果の指標	スポーツ活動をする市民の割合	—	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	初開催となる福岡マラソン2014（H26.11.9）開催に向けた準備を行った。					
国際スポーツ大会等の誘致・開催②（国際スポーツ大会開催等経費）		所管課	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	25年度事業費	0	千円
				26年度事業費	0	千円
対象	国内外のスポーツ関係団体等	目的	国際スポーツ大会等開催地、事前合宿地の誘致・支援を行うことにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増えるなど、市民スポーツの振興が推進されるとともに、本市の知名度向上や参加者・観光客増加による経済波及効果ももたらされる。			
前年度実施内容	H24nは補助対象となる国際スポーツ大会（バレーボールワールドカップ（次回開催H27n））が無かったため、実績無し。					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	—	—	—	—	—	
成果の指標	スポーツ観戦の機会への評価（％）	—	73.7	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
国際スポーツ大会等の誘致・開催③（スポーツコミッション事業）		所管課	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	25年度事業費	3,283	千円
				26年度事業費	2,045	千円
対象	国内外のスポーツ関係団体等	目的	国際スポーツ大会等開催地、事前合宿地の誘致・支援を行うことにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増えるなど、市民スポーツの振興が推進されるとともに、本市の知名度向上や参加者・観光客増加による経済波及効果ももたらされる。			
前年度実施内容	①イギリス陸上競技連盟視察受け入れ 平成27年に世界陸上競技選手権大会が北京で開催されるにあたり、事前合宿地として本市内陸上競技場等を2回視察。 ・1回目 視察日：平成25年9月12日 視察者：2名 ・2回目 視察日：平成26年3月19・20日 視察者：2名 ②スウェーデンオリンピック委員会視察受け入れ準備 2020年の東京オリンピックが開催されるにあたり、事前合宿地として本市競技施設等の視察依頼（平成25年3月）。 ③ラグビーワールドカップ2019福岡招致 2019年に開催されるラグビーワールドカップの試合開催地及びキャンプ地誘致のため情報収集等を行った。					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	—	—	—	—	C	
成果の指標	スポーツ観戦の機会への評価（％）	—	73.7	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
アビスパ福岡活用・支援		所管課	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	25年度事業費	87,714	千円
				26年度事業費	87,337	千円
対象	アビスパ福岡	目的	・市民が、試合観戦やアビスパ福岡のホームタウン活動を通して、一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増える。 ・多くの市民や企業、団体が、アビスパ福岡を誇りに思い、積極的に支援することで、アビスパ福岡の経営基盤が安定し、自立が図られる。			
前年度実施内容	①観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） ②少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） ③親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） ④心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） ⑤アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） ⑥スポーツ大会等広告看板掲出（ホームゲーム時に掲出） ⑦ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチおよびブラインドサッカー選手による体験教室）					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	—	—	—	—	B	
成果の指標	プロスポーツチームなどの主催試合観客数（千人）	238	240	101%		
事業の進捗状況に関する補足	—					

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-6	国内外への戦略的なプロモーションの推進		
施策の方向性	都市圏や九州の各都市、さらには釜山広域市と連携し、国内やアジアをはじめとする海外の有望市場に対し、メディア、インターネットなどを活用した効果的なプロモーションにより、クルーズ客を含め、国内外からの誘客に積極的に取り組み、多くの人をひきつけます。		
施策主管局	経済観光文化局	関連局	港湾局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策5-6)国内外への戦略的なプロモーションの推進

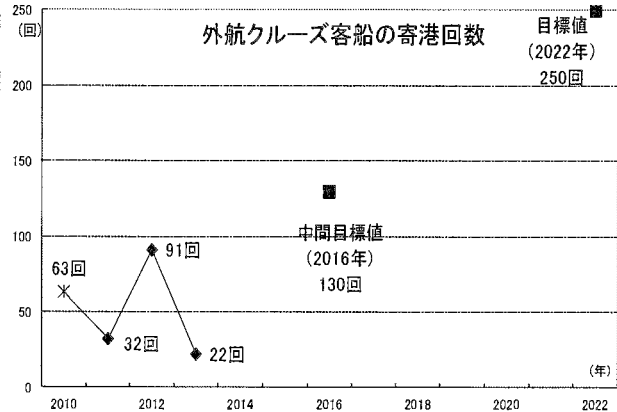
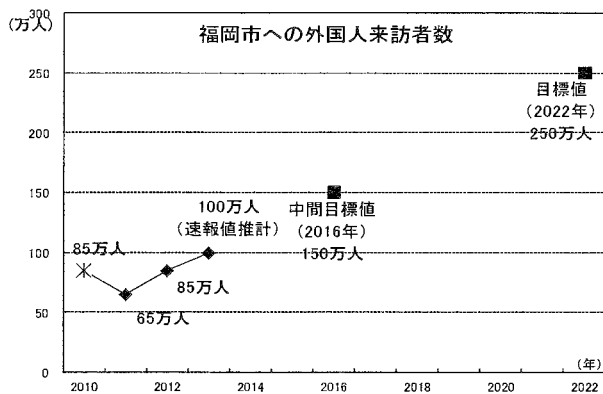
- シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進
 - 国内外観光プロモーション事業(欧州・アジア等)
 - フィルムコミッション事業<再掲7-3>
- クルーズ客拡大への取り組み
 - クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化
 - クルーズ客船に対するインセンティブ(港湾使用料の減免)
 - ★全国クルーズ活性化会議

1 指標

《成果指標》

	初期値	2011年	2012年	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
福岡市への外国人来訪者数	85万人 (2010年)	65万人 (2011年)	85万人 (2012年)	100万人 (2013年)※	150万人	250万人	B
外航クルーズ客船の寄港回数	63回 (2010年)	32回 (2011年)	91回 (2012年)	22回 (2013年)	130回	250回	C

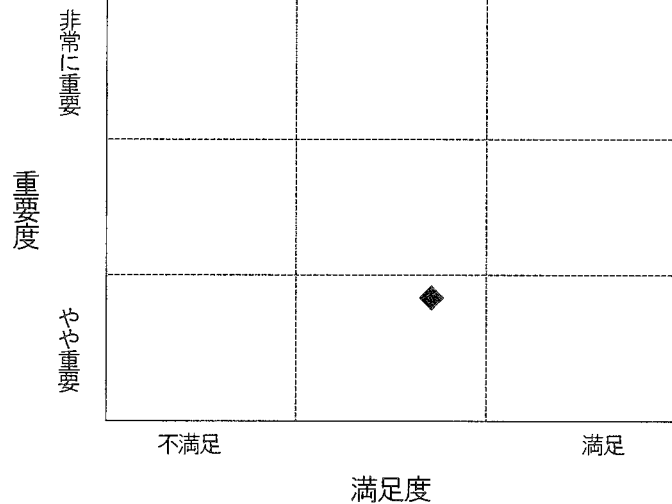
※速報値推計



《市民満足度調査（2013 年度調査）》

満足度		重要度	
満足	22.1%	重要	43.5%
不満足	14.1%	非重要	11.2%
どちらでもない	60.9%	どちらでもない	41.2%

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



2 現状分析

（1）成果指標等の分析

- ・全国的にも訪日外国人旅行者数が伸びており、かつ福岡市においては韓国からの入国者数が震災前のレベルに戻ってきていること、台湾やタイなどその他アジア地域からの入国者が増加していることが来訪者数の増加につながっていると考えられる。
- ・外国クルーズ客船については、国際情勢の影響により博多港へ寄港する数が激減した。

（2）主な事業の成果

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・H25.4 から福岡-アムステルダム間に KLM オランダ航空の直行便が就航。
- ・直行便が就航しているアジア及び欧州市場並びに国内市場に対して、市長のトップセールスを含むプロモーションを実施。（主な実績 欧州：約 120 名、香港：約 100 名（釜山広域市との共同開催）、台湾：約 5,000 名が参加）
- ・福岡の認知度を向上のため、メディア関係者を招請するなどして、中国・台湾での 100 媒体以上の web 記事の掲載、7 本の TV 番組等のほか SNS 等による情報発信を実施。
- ・福岡フィルムコミッションについて、海外作品 3 件の撮影支援を行ったほか、香港や釜山などの国際映画祭に合わせて開催される見本市等において撮影誘致活動を実施。

●クルーズ客拡大への取り組み

- ・クルーズ客船着岸岸壁から国際ターミナルまでの連絡バス運行の継続とともに、係船柱、防舷材などの港湾施設整備などの受入環境を整備。
- ・船社・代理店等訪問や、海外クルーズコンベンションに参加し、新たなクルーズ船社による寄港や博多港発着クルーズの振興を目指した誘致活動を実施。

（3）施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・福岡市を訪れる国内からの観光客は、福岡県内、九州、中国地方が多数を占めており、国内人口の 6 割以上を占める 3 大都市圏（首都圏、中部圏、関西圏）からの観光客は全体の 2 割程度と少ない。
- ・外国人観光客の 6 割を韓国、中国で占めているが、特定の地域に集中しているため、観光客の動向が国際情勢による影響を受けやすい。
- ・観光地としての福岡市の知名度を向上させるため、伝統・文化、食、コンテンツ、ファッション、ショッピングなどの素材の中からターゲットの地域の嗜好にあわせてどんな内容・手法でプロモーションを行うかについて、さらなる研究が必要。

●クルーズ客拡大への取組み

- ・クルーズ客の利便性向上のため、入国審査の迅速化に関する国との協議や、旅行社及び商業施設との連携強化について継続していくことが重要。
- ・新旅客施設（H27 完成予定）を整備することで、より迅速な入国審査・乗下船が可能となる。今後、寄港誘致とともに、博多港発着クルーズ誘致についても積極的に取り組んでいく必要がある。
- ・国際情勢の影響により博多港へ寄港数が激減。（H25n：外航 22 回、内航 16 回）

3 施策の評価（１・２を踏まえた施策の進捗状況）

やや遅れている

- ・外国人来訪者数に関する成果指標は増加している（過去最高）。外国クルーズ客船寄港回数に関する成果指標は減少している。（なお、H26 に入って回復基調。）
- ・直行便の就航するアジア、欧州へのプロモーション実施、クルーズ誘致活動など、事業は概ね目標どおり進んでいる。

4 今後の取組みの方向性

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・日本政府観光局等、関係団体からの情報収集に加え、福岡観光コンベンションビューローや各種協議会とも連携して、ターゲットとなる市場のニーズを捉え、効果的なプロモーションを計画的に実施。
- ・福岡フィルムコミッションにおいては、多くの国や地域から利用してもらえるよう、国内やアジアをはじめとする海外の有望市場に対し、メディアやインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。

●クルーズ客拡大への取組み

- ・旅行社及び商業施設との連携強化とともに、入国審査の迅速化に関する国との協議も継続。
- ・海外船社・代理店との関係を継続的に構築していくことで、海外からの集客を着実に推進。
- ・日本人ターゲットの外国船クルーズなどの新しい市場の動向も踏まえ、博多港発着クルーズの誘致活動を展開。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進

国内外観光プロモーション事業①		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	25年度事業費	10,064 千円
				26年度事業費	11,277 千円
対象	国内外の旅行者	目的	福岡に興味・関心を持ち、福岡を訪れる		
前年度実施内容	各種観光協議会へ参加、負担金を納め、広域連携による事業を実施。 (観光説明会の開催・ブース出展) 各協議会で韓国や台湾等において実施(7件) (広報・PRなどの事業) 欧州やタイからのメディア取材等を受入れ(5件) (招請事業の実施) 上海やシンガポールからのVJ事業を実施(3件)				
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	国内外へのプロモーションの実施回数	15	15	100%	B
成果の指標	入込観光客数(海外)	—	1,000,000	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				
国内外観光プロモーション事業②(戦略的情報発信事業)		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	25年度事業費	7,000 千円
				26年度事業費	6,900 千円
対象	国内外の旅行者	目的	福岡に興味・関心を持ち、福岡を訪れる		
前年度実施内容	【国内外観光プロモーション事業①の広報媒体部分】 各種観光協議会へ参加、負担金を納め、広域連携による事業を実施。 ・福岡観光ポスターの印刷・配布(H25は配布のみ) ・福岡観光ガイドブックの作成(実行委員会への負担金) (作成部数:日30万・英5万・韓5万・繁6万・簡6万)				
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	国内外へのプロモーションの実施回数	15	15	100%	B
成果の指標	入込観光客数(海外)	—	1,000,000	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				
国内外観光プロモーション事業③(アジア観光市場開拓事業)		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	25年度事業費	19,381 千円
				26年度事業費	11,800 千円
対象	国外在住者	目的	福岡を知ってもらい、福岡を旅行先を選んでもらう		
前年度実施内容	・委託を行い、中国向けPR事業を行った。 ①WEB媒体に対するニュースリリース発信 ②中国有名雑誌とのタイアップイベント ③旅行の達人によるBBS旅行記コンテスト ④微博(中国版ツイッター)による情報発信 ・委託を行い、台湾向けPR事業を行った。 ①台湾向けポータルとしてのWEBページの作成 ②福岡市の交通情報が1冊に網羅されたパンフレットの作成 ③台北プロモーションと連動した観光プロモーション「福岡時間」の実施 ④台北プロモーションに合わせて地下鉄・フリーペーパーに広告掲載 ・福岡市観光交流事業運営委員会により外国映画・テレビドラマ等のロケ地誘致事業を行う。				
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	情報発信事業数	—	8	—	B
成果の指標	入込観光客数(海外)	—	1,000,000	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				
国内外観光プロモーション事業④(観光ブランド創出事業)		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	25年度事業費	21,148 千円
				26年度事業費	14,100 千円
対象	直行便が就航しているアジアの主要都市(台湾、香港、タイ、シンガポール等)	目的	福岡観光の魅力を知り、福岡を訪れる動機を持っている状態にする		
前年度実施内容	(台湾現地プロモーション) (1)シティプロモーション 台湾の情報発信の拠点である「西門紅樓」において、福岡市の最新文化を発信するシティプロモーション「福岡ナイト」を実施。また、隣接する北広場においても観光PRのほか、福岡出身の食関連企業や現地航空会社・旅行会社のブース出展等による観光プロモーションを実施 (2)政府機関等への訪問 総統府、台北市政府、經濟部等を訪問し、今後の経済・観光・文化面における交流推進及び若手起業家を含めた双方の進出企業を支援していくことを確認				
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	プロモーション件数	2	2	100%	B
成果の指標	入込観光客数(海外)	—	1,000,000	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				

国内外観光プロモーション事業⑤（欧州プロモーション事業）		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	25年度事業費	13,500	千円
				26年度事業費	8,063	千円
対象	オランダをはじめとした欧州市場 目的 福岡の認知度が高まり、福岡に頻繁に訪れてもらう					
前年度実施内容	(1) 表敬訪問・意見交換会等 アムステルダム市長やKLMオランダ航空等に対し、直行便就航の御礼や今後の利用促進拡充、相互交流、ビジネスの需要拡大に向けた意見交換を実施。 (2) アムステルダムプロモーション（100名程度が参加） 政府関係者、経済団体、空港関係者、旅行会社、メディア等を招き、市長によるプレゼンテーションなどを実施し、福岡市の概要や歴史・文化、食等の魅力をPRした。 (3) パリプロモーション（30名程度が参加） 旅行会社及びメディア関係者を招き、プレゼンテーションなどを実施し、福岡市の概要や歴史・文化、食など観光の魅力をPRした。 (4) 旅行社等招請（12名招請） フランスの旅行社、雑誌社等を招請し、福岡の視察を実施					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	プロモーション件数	3	4	133%	B	
成果の指標	入込観光客数（海外）	—	1,000,000	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化① 外国クルーズ客船受入事業（A）		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	25年度事業費	31,302	千円
				26年度事業費	26,806	千円
対象	クルーズ客 目的 スムーズに観光やショッピングを楽しみ、クルーズ客の満足度が上がる					
前年度実施内容	(1) 着岸場所（岸壁・博多港国際ターミナル）での対応 ①入国管理局、警察等との連絡調整 ②記念セレモニー、船内見学会、歓迎のぼりや歓迎横断幕の掲出、岸壁での歓迎・見送り演出の実施 ③ウエルカムゲートの設置、英中韓対応の語学ボランティアによる観光案内の実施等 (2) 天神地区、買い物時の受け入れ体制等の整備 ①観光バスの天神地区乗り入れの受入協力 ②天神地区商業施設と連携した受入体制（外国語対応等）の充実強化等 ③天神観光案内所等にウエルカムサポーター（語学ボランティア）配置					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	受入体制の整備	—	—	—	C	
成果の指標	外航クルーズ客船の寄港回数	100	22	22%		
事業の進捗状況に関する補足	外国クルーズ客船の寄港はH25は激減したが、H26以降は回復基調にある。					
クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化② 外国クルーズ客船受入事業（B）		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	25年度事業費	10,330	千円
				26年度事業費	6,445	千円
対象	クルーズ客 目的 スムーズに観光やショッピングを楽しみ、クルーズ客の満足度が上がる					
前年度実施内容	【外国クルーズ客船受入事業にかかる広報媒体部分】 ・クルーズ客向けガイドブック制作3万部（英・韓・繁体記） ・記念品（ポストカード）制作5万セット（日・英・韓・繁体・簡各1万セット） ・クーポン付チラシ制作200枚 ・誘導サイン制作200枚 ・ポスター制作16枚					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	パンフレットの作成	—	—	—	C	
成果の指標	外航クルーズ客船の寄港回数	100	22	22%		
事業の進捗状況に関する補足	—					
クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化③ （クルーズ客船誘致事業）（調査振興費）		所管課	港湾局港湾振興部クルーズ課	25年度事業費	6,751	千円
				26年度事業費	28,223	千円
対象	船社・旅行代理店等 目的 クルーズ客船の誘致					
前年度実施内容	・クルーズ客船誘致事業 海外船社、国内クルーズ関係企業等に訪問し、寄港誘致 海外コンベンションに多数参加し、クルーズ港としての博多港をPR ・受入体制の充実 中央ふ頭内でのアクセス改善等、港での受入体制の強化 ・博多港発着クルーズ振興 市民クルーズ、市民船内見学会等を実施					
	指標内容	25年度目標	25年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	船社・旅行代理店等訪問数	40	47	118%	C	
成果の指標	外航クルーズ客船寄港回数（暦年）	100	22	22%		
事業の進捗状況に関する補足	—					